

ホームページもご覧ください

<http://www.komei.or.jp/km/kofu-hyodo-kenji/>

皆様方には日頃から温かいご支援を賜り、心から感謝申し上げます。
新型コロナウイルスがなかなか収束が見通せない中、追い打ちをかけるような物価高
でますます生活への影響が深刻化しています。

9月定例会では昨年に引き続き、令和3年度の決算を審査する決算審査特別委員会の委員として、
9月16日から27日まで審査に従事しました。

昨年7月に施行された議会基本条例に基づき、決算審査で明らかになった行財政執行上の課題を次の
予算編成に適切に反映させるため、決算審査は重要な意義があります。

執行当局との「善政競争」のためには、議会側もしっかりとした審議を求められます。
ようやくこの流れが定着してきて、今期のミッションの一つである「中核市にふ
さわしい議会」へと甲府市議会も発展しつつあります。

次の時代へ引き継ぐための基盤づくりが実を結びつつあるのもひとえに皆様方の
温かいご支援のおかげです。

残りの任期も公明党がいる安心を実現するため、全力で働いて参ります。



これまでの本会議での質問動画 → [甲府市議会インターネット中継](https://kofu-city.stream.jfit.co.jp/?tpl=speaker_result&speaker_id=58)

(https://kofu-city.stream.jfit.co.jp/?tpl=speaker_result&speaker_id=58)

決算審査特別委員会から

(1) 一般会計歳入についての主な質問

○ **ふるさと納税（寄付金）について** 見落としがちな論点を確認しました。

- ・ 令和3年度の寄付金額 約22億円（前年度比9億円増）
- ・ 返礼品をはじめとする事務経費 約10億円（前年度比4億円増）
- ・ 本市市民の他都市へのふるさと納税に係る市民税減額分 約3億円
（ただし、その75%は次年度普通交付税で補てん）

※ ふるさと納税による寄付金額は交付税算定基礎には算入されないため、
今後少ない経費で多くの寄付金を獲得する自治体間競争が益々激化する。

※ 特に本市在住の市民が他都市にふるさと納税すると本市の市民税が減
税されるため、より魅力的なふるさと納税を考えていく必要がある。

こうした指摘をしました。

(2) 歳出に係る主な質問

- 今回、子ども医療費の窓口無料制度について取り上げました。
 - ・現在中学3年生までは医療費の自己負担分を市が助成し、なおかつ窓口での現金支払いを免除する「窓口無料制度」となっています。
 - ・子育て世帯などの負担が軽減される一方、この「窓口無料制度」を行う自治体に対しては、国から「国庫負担金の減額調整措置」がとられ、自治体財政には大きな足かせとなっています。
 - ・わが党の山口代表が平成28年参議院本会議でこの問題について取り上げ、その結果、減額対象年齢がこれまでの3歳以上から未就学児以上に引き上げられました。
 - ・甲府市ではわが党の提言を受け、令和5年1月から高校3年生相当まで医療費の窓口無料化の対象年齢が引き上げられます。
 - ・わが会派としては、対象年齢の引き上げを提言した以上、依然としてボトルネックとなっている「国庫負担金の減額調整措置」の撤廃に向けても対応していかなければならないと考えています。
 - ・そのため、決算審査特別委員会の委員間討議の場において、こうした**減額調整措置の撤廃を求める意見書**を甲府市議会として国へ提出すべきことを提案しました。
 - ・その結果、9月29日の最終日本会議にて、全会一致で意見書提出が可決されました。
- その他
 - ・動物愛護の取組みを一層行うため、殺処分ゼロに向けたハード整備（引き取った犬猫を里親が見つかるまで預かっておくためのスペースの確保）を求めました。
 - ・女性の起業を応援するための融資制度の拡充を求め、できれば中心街への起業を積極的に後押しするよう求めました。
 - ・合同企業説明会の引き続きの充実と市内への就職によるメリットについて参加者への情報提供を充実するよう求めました。
 - ・日本遺産御嶽昇仙峡のガイドやアシスタントガイドの養成、信玄ミュージアムのガイド養成など、甲府の資源を自在に語ることのできるおもてなしガイドの養成を今後も充実するよう求めました。